

新型コロナウイルス要請書の回答

新型コロナウイルスに関する要請書の回答が届きました。紹介します。詳細は、HPをご覧ください。

1. 学校における感染拡大を防止するために必要な条件整備を行うとともに、必要な財政措置を行うこと。

①すべての学校に必要な学習支援員、サポーター、ICTアドバイザー、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を増員加配すること。

【回答】学習内容の定着が十分な児童生徒に対して、個別にきめ細やかな支援ができるよう学習支援員を配置しました。また、スクールソーシャルワーカーを増員し、児童生徒の支援を行っています。

②子どもたちの指導にあたる

教職員を確保するために、不要不急な出張や研修を行わないようにすること。

【回答】8月末までの出張や研修については精選を図っています。以降の出張や研修については、状況に応じて適切に対応していきます。

③すべての子どもたちが利用可能な手洗い場の整備や、消毒液、液体せっけん等の確保が確実にできるような措置すること。

【回答】消毒液や液体せっけんの確保については、適切な予算措置を講じることができているように対応中です。

④校内の清掃・消毒活動を教職員が行うのではなく、専門業者等を配置すること。

【回答】7月初旬から9月の開校日について、トイレ清掃

を業務委託します。教職員の負担を軽減し、教師が児童生徒への指導や教材研究に注力できる体制を整えるとともに、清掃時に消毒を実施することによって感染予防を図ります。



⑤看護師を各学校に配置すること。保健所や学校医・感染症専門医師等と連携し、保健室等での詳細な対応マニュアルを作成すること。医療的ケアを必要とする児童生徒のための医療スタッフを配置・増員し、必要な物品を確保すること。

【回答】看護師を各学校に配置することは考えていません。保健所や感染症専門医師との連携は今後も行っています。

2. 教職員の感染を防止するために必要な条件整備を行うとともに、必要な財政措置を行うこと。

①職員室等での「3つの密」を防ぐ手立てを確立するため、各学校の実状を把握し必

要な財政措置を行うこと。

【回答】各校において、それぞれの状況に合わせた適切な感染拡大防止策が行われていると考えています。

3. 教育課程の編成は各学校が行うものであり、休校によって授業ができなかった内容の指導について、機械的に授業時数の確保を求めるのではなく、各学校の実態をふまえた方法を尊重すること。

①補充のための授業等の取り組みを行うにあたり、子どもや教職員の過重な負担とならないようにするために必要な支援を行うこと。

【回答】学校サポーターについては、6月のみですが小学校における活動回数を増やし、授業サポーターや個別の学習支援を行うことができると定着が不十分な児童生徒に対して、個別にきめ細やかな支援ができるよう学習支援員を、特別支援教育支援員のいない学校や、活動のない曜日があ

る学校に配置しました。

4. その他

①20人以下学級を展望し、教育予算の大幅増加と教職員の定数改善等により教職員を大幅に増やすように、国・県に要望すること。

【回答】今後もきめ細やかな教育環境の実現に向けて働きかけていきます。

7月教育委員会傍聴

今回の報告の中に、「コミュニケーション・スクール設置研究指定校 陶原小学校の研究報告について」がありました。内容は長根小学校のコミュニケーション・スクールの前例を研修し、教師・子ども・PTAなどの意識調査の分析等をしてありました。また、学校給食費未納は、少し増えていましたが、就学援助金や生活保護費など、賄えるので、心配ないということでした。

議題の方では、小中学校の教科書図書の採用についてがあり、小学校は、今までと同様なので、即行で全員承認でした。中学校は、音楽（器楽）のみ「教育芸術社」から「教育出版」に変更するということがありました。変更理由は、「演奏者目線で楽器演奏の時の指の曲げ方などが分かり易かった。」などの説明があり、こちらも承認されました。

今回の傍聴は、私にとっても身近で、内容が分かり易く、意見もたくさん出て見学し甲斐がありました。

(原田)



にじの丘学園の問題点

①強引な「進め方」

- 地元説明会などで、反対意見をいっても、変わらない。
- 道泉学区で13000筆の署名を集めても、議会で否決。
- 地区協議会・施設整備委員会・開校準備委員会などを形骸化し、既成事実化している。(バス代が月2000円から500円に。距離制限をなくした。)

②統廃合の規模と立地場所

- 5小2中を1校にするのは、全国的にも大規模。
- にじの丘学園、平均3クラス27学級は、大規模。(1・2年29×4クラス、8・9年2クラス)
- 北側は「土砂災害危険区域」、南側には液状化しやすい地区である。イノシシ、熊等の被害も心配。スクールゾーンの設置がない。
- 通学は原則徒歩で、遠いところは、路線バス。年6000円。始めの説明では、道泉は「スクールバス」東明は「スクールバスと路線バス」だった。
- 「見守りボランティア」40名だが、本当に安全が守られるのか？バス2人体制。
- 通学路が狭くて、子どもが集まれる場所がない。
- 朝、早い子は、6:45に家を出て7:17に乗車、7:30に到着しても8:00まで教室に入室できない。
- バス停などに日陰が少ない。

③教育内容

- クラス替え、部活ができないなど小規模校の弱点を指摘し、少人数学級の良さを見ていない。
- 「中1ギャップ」は、一部のことで、「いじめ・不登校」は、現在実施している一貫校では、増加傾向である。
- 今までの先進的な実践を総花的に取り入れ、早期英語教育・ICT教育・乗り入れ授業、キャリア教育など、実際に可能なのか。
- 統廃合により、教職員は50名近く減らされる。ますます多忙化する。コロナ禍の下益々人手がたりない。
- 児童・生徒の発達段階を考慮しない、4・3・2制度や部活の在り方。
- 学校行事・集会など多学年で発達段階のちがいがもあり、困難なことが多い。

④その他

- 制服・体操服などそろえるのに、多額の費用がかかる。(初年度10万円位)
- 通学時間がかかり(1時間以上もあり)、学習や遊びの時間が減る。小学生が放課に外遊びができない。
- 跡地の活用も問題が出てきている。本山中の跡地に株式会社教育システムが参入し、「私立幼稚園と小学校」(瀬戸国際LCA学園・ソラン小学校)を計画している。
- トイレの数が少ない。
- 職員室・給食室が1つで大丈夫なのか。
- バス通学の人の迎えが増えてきた。駐車場が遠く、病気の時など心配。

⑤市への要望

- 通学問題懇談会を開いてください。
- 安心して通えるスクールバスに変えてください。
- 現状で、バスのボランティアを2人体制にしてください。

※ 今後、大規模化により問題は深刻化すると思われる。適正規模(12〜18学級)はどうなったのか・・・？

(市教委指導主事作成)

2020.7.9

	学校名	日本語教育通訳学級 担当教員	・ ・ ・ 少人数指導専任授業等対応 中学校学習支援対応	児童生徒支援対応教員	通級指導教室担当教員	外国語専科教員	専科教員（外国語以外）	豊後教諭
		(人)	常勤 (人)	非常勤 (人・時間／週)	(人)	常勤 (人)	非常勤 (時間／週)	(人)
1	陶原小学校		1			1		
2	效範小学校					1		
3	水野小学校		1					
4	水南小学校		1			1		
5	幡山東小学校			1(18h)				0.5×2
6	幡山西小学校		1	1(12h)				
7	下品野小学校	1	1					
8	品野台小学校							
9	掛川小学校							1
10	長根小学校			1(18h)		1		1
11	原山小学校	2	1	1(12h)	1			
12	東山小学校			1(18h)			20	1
13	萩山小学校	2	1	1(12h)		1		
14	八幡小学校	2	1			1		
15	西陵小学校		1			1	20	
16	にじの丘小学校	1		3(30h)		1	1	
21	水無瀬中学校		1	3(30h)	1			
22	南山中学校		2	2(16h)	1			
23	幡山中学校		3	2(25h)		1		
24	品野中学校	1	2	1(15h)				
25	光陵中学校	4	1	2(25h)	1	1		
26	水野中学校		2	3(30h)				
27	にじの丘中学校		1	1(14h)	2			

1. 7月8日の児童生徒の登校時における問題点の検証と周知について

- ①各学校がとった対応を明らかにすること。
 - ②市として対応が十分であったかを検討すること。
 - ③検証結果を各学校及び市民に周知すること。
2. 今後の対応について
- ①通学路及び通学方法の点検を再度行うこと。
 - ・地域開発等により新たな危険個所の発生や側溝の未整備などが生じているおそれがあるため。
 - ・長期閉校やその後の各校での安全対策の時間が確保できず新年度の通学路点検が十分に実施されていない可能性があるため。また、今回のように豪雨や土砂災害の視点で通学路の点検を行う必要があるため。
 - ・にじの丘学園のバス通学については特に保護者・市民・学校の聞き取りを十分にに行ききめ細やかな対応を行う必要があるため。
 - ②ガイドラインを作成し周知すること。

• • • • (略) • • • •

※HPをご覧ください。

加配の基準？ 対策は？

次の資料は、市教委の開示資料をA氏から提供されたものです。

左の資料は今年の加配教員の数です。品野台小学校以外は教員の加配があります。学校の実情があると思いますが、それぞれの項目で加配の基準があるのでしょうか？

右の資料は、6年後の児童生徒と学級数の推移状況です。水野小など赤字の学校が生徒数が大幅に人数が増えます。少人数学級が必要とされている中で、今後の対策はどうなっているのでしょうか？

教育現場 今と6年後

6年後の学校は・・・

学年進行一覽表 令和2年5月1日現在 (2020.6.22開示)

区分		令和2年度		令和8年度	
学校名		生徒数	学級数	生徒数	学級数
1	陶原	595	22	357	16
2	效範	572	24	425	20
3	水野	470	19	543	21
4	水南	502	19	372	14
5	幡山東	519	20	701	24
6	幡山西	529	18	679	22
7	下品野	414	14	349	14
8	品野台	85	7	64	7
9	掛川	25	5	2	2
10	長根	522	20	461	17
11	原山	190	7	270	11
12	栗山	579	20	324	14
13	萩山	93	8	77	8
14	八幡	203	10	147	8
15	百陵	766	25	277	12
16	にじの丘	654	24	755	27
	計	6,718	262	5,803	237
1	水無瀬	620	19	533	17
2	南山	954	30	778	25
3	幡山	549	18	583	18
4	品野	264	11	253	11
5	光陵	242	10	190	9
6	水野	532	19	614	20
7	にじの丘	200	9	332	12
	合計	3,361	116	3,283	112

(※特別支援学級の学級数は省略)

今年も水による甚大な被害が全国各地で出ました。瀬戸市に令一時「土砂災害警戒区域」が指定され、登校に多くの混乱がありました。

現状では、各学校の対応によりますが、今回の検証（各学校の対応など）をし、子どもたちの安全、保護者・市民への安心の確保が必要です。

学区の土砂災害（特別）警戒区域や市街開発による新たな危険箇所の発生などの再検討が求められます。また、パス通学における対策、連絡方法などきめ細やかなガイドラインの作成が必要です。

瀬教労は、今回検証と今後の対策を万全に行うように市に要請書を提出しました。

災害・緊急時に備えて

います。
感想文の中には、「にじの丘
がどんな状況か、聞きにきた
ので、参考になつて良かった
です」とか「小中一貫校問題
は、その学校のみの問題では
なく、一つ一つ解決していく
努力が私たちに必要と思いま
道に、」などがありました。地
話し合ふ場を
作つていくこ
が、私たちで
きることを思
いました。(原田)



か参加してくださった。総会では、方針で、意見があり、前向きに訂正することになりました。

交流会では、にじの丘学園の実態、通学に関することなど、また8日の「大雨警報」二十秒災害警戒警報」の出た日の各学校の対応などの話が具体的に聞けました。山口先生の話では、「公教育では通学の安心・安全も市が責任を持つべきで、スクールバスが必要で、交通費600.00円を徴収するのはおかしい。」住民監査請求をするのも、ひとつの方法だということでした。いろいろな意見をまとめて、市に要請することになり、今準備して



ぼんちんをさがす